

会員だより

老“ろう”を
生きる

難聴 “なんちよう”
を生きる

私は早くから人より聞こえにくいという自覚がありました。60代に入ると、だんだんひどくなつて、人も知られるようになってきました。



あなたも老人性
難聴になるよ！

70歳ころから補聴器を使うようになりましたが、老人特有の感音性の難聴で、人の声が音としては聞こえるのですが内容が理解できません。耳の正常な人には理解してもらえないだろうと思います。

最近、補聴器の片方をなくしてしまい、大探ししましたが出てこず、新調することに、思わず出費で、ひいひい言っています。つい人と話すのが億劫になり、人との交流を避けたりになります。私の居るホー

ムでも難聴の人はあまり人と交わらず静かにしておられます。でも私はいろいろ考えて違う生き方をしています。私は麻雀を人に教えたり、みんなと一緒にトランプや歌留多もします。聞こえないことは気にせず、自分の言いたいことは言います。聞こえないため返事しなかったりしているかも知れませんが、人迷惑かもしませんが、今のところ周囲の方々が気持ちよく受け入れてくださって、私のために近くで話してくださいたり、少し大きい声で話してくださいだったり、時には「通訳」もしてくださったりしており、感謝しながら楽しく暮らしています。



単語や文節ごとに「ゆっく」「はっきり」話して！

聞こえないだろうと大きな声で話してください方が多いのですが、それは駄目なのです。はっきりと(活舌をよくして)少しゆっくり言ってほしいのです。よろしくお願いいたします。

記…牧戸富美子

編集後記

高齢者の難聴は、高齢化に伴って避けられない問題です。

大きな声で話すると聞こえると言う単純な問題では無いのです。

話し方が早いと難聴者には聞き取りづらいのです。

ただしゆっくりすぎたり大きな声で話したりすると、表情・口調・唇の動きが変わって内容が読み取れず、かえって聞き取りづらくなってしまうのです。

単語ごとや文節ごとに区切りながら話すと、聞きとりやすくなります。

「ハッキリとした話し声で明朗快活に」「キレのある発音で滑舌よく」話するようにして下さい。



「ピースおおさか」を訪問して

VG 槻輪で、3月18日大阪森ノ宮にある「ピースおおさか」を訪れました。

「実物・証言」「体験・体感」「子ども目線」「追悼」の展示構成になっている。入ったとたん焼き尽くされた大阪の町が目に飛び込んで来ました。

今まで話に聞いたたり写真を見たりしたことはあ

りました。こんなにも悲惨なことになっていったのか、たくさんの尊い命が亡くなり、大勢の人がどんなに悲しい思いをしながら亡くなつていったのだらう・・・。



灯火管制の部屋

電気の明りが漏れたら「ねらわれる」と言つて黒い布を電灯にかぶせていたことや、玄米を瓶に入れてトントンと棒でついて精米をしていたと話にはよく聞きました。

それにしてもなぜあんなに悲惨な状況になるまで終戦に至らなかったのか、政府の偉い人達には敗戦は避けられない事は解



生後120日記念写真(「よだれかけ」今も大事に保管しています)

又、母はちよつと私と離れている間に爆弾が落ちて、どちらかが死んでも、生きては行けないと、ほんの少しの間トイレに行く間さえも身体から離さなかつたと言っていました。

昭和21年京都から滋賀県の田舎(今の長浜市)に居を移して、そこは父母の里でしたので、食べ物にも何も不自由なく成長しました。おかげで戦中のこと

中で母はどんなにか大変だったことでしょう。一杯の雑炊にも行列に並ばなければならなかつたし、卵3個を手に入れるのにも京都の果てまで行つて、ようやく買えた・・・とか。会社員だった父が夜遅くまで残業すると、にぎりめしがもらえて、残業が苦にならなかつたこと、そのおにぎりを持って帰つて、雑炊にして3人で食べたことなど聞いたことがあります。又、灯火管制で京都の町の中心部でも夜は真っ暗闇だったそうです。



右は、3歳の時の写真です。椅子の大きさがわかりますが、1歳半程度の身長だった様です。

しかし今回の「ピースおおさか」の訪問で、私達の方たちの犠牲の上に成り立っていたこと、今も戦争の傷跡をかかえて暮らしておられる方のことを思つた一日でした。

記・写真…大岡津奈子